

## 平成24年度のモニタリング調査計画

※第19回生態系モニタリング専門委員会の主な意見(調査計画  
関連分)はP13-14に示しています。

# 1. モニタリング計画策定の留意点

## 【計画作成の留意点】

### ①対象範囲

- ・H23までの「試験施工地」に加え、H24からは「整備地」が対象となる。

### ②調査内容

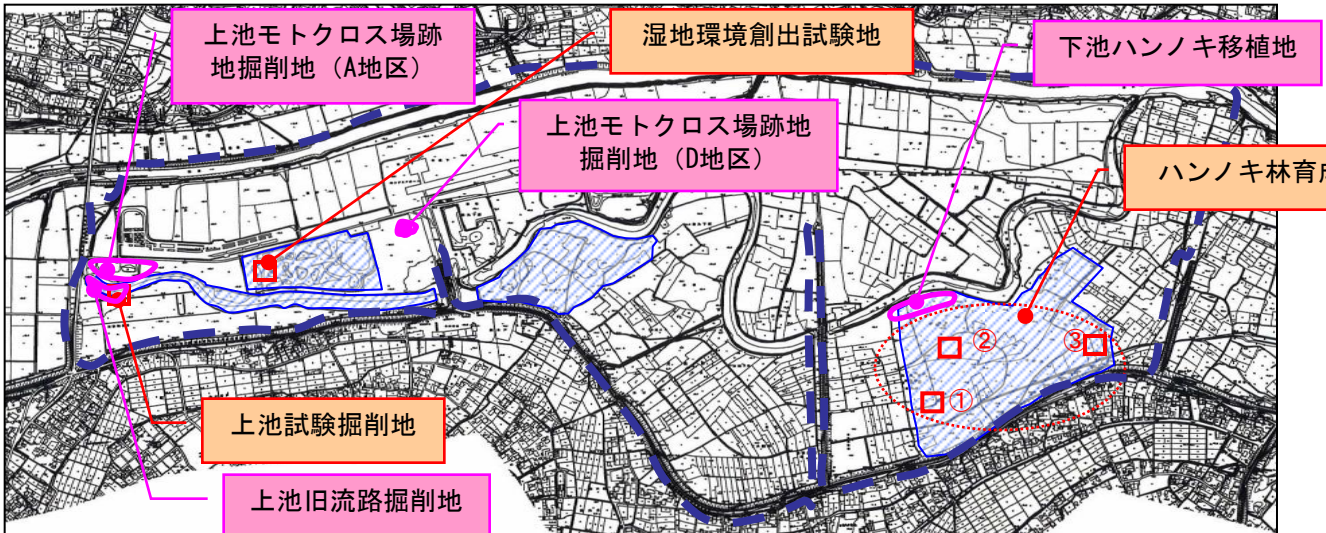
- ・対象範囲ごとの目的に応じて、H23までの調査内容の継続、追加・削除を実施する。
- ・整備地の状況変化に応じて、年度途中でも柔軟に対応できるようにしておく。
- ・事業の目的には「エコロジカル・ネットワークの形成」が含まれているため、より広域的な観点からの調査対象を設定する。

### ③実施者

- ・国が実施するだけでなく、住民・NPOなどの協議会委員による実施内容を加える。
- ・研究者の受け入れのためのルール作りを行っていく。

# 2. モニタリング調査の範囲と目的

対象範囲	目的	基本方針	H24実施内容	備考
太郎右衛門地区全体	地区全体の自然環境の現況(及び変化)の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な調査とテーマ調査に分けて実施。</li> <li>・基礎的な調査は1回/年~3回/年程度の頻度で実施。</li> <li>・テーマ調査は目的に応じた頻度で実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基礎的な調査</li> <li>・地下水位調査</li> <li>・旧流路(上池、中池、下池)の水質調査</li> <li>・植生調査、動植物の生息・生育調査のうち鳥類・昆虫類調査を実施</li> <li>●テーマ調査</li> <li>・H24年度に生態系モニタリング専門委員会で検討</li> </ul>	P4
整備地	当面の整備対象範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備にあたっての留意点を確認する。(配慮すべき重要種の存在など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上池の旧流路は年により出現の変動が大きいエキサイゼリ・オナモミが生育するため、調査を継続</li> <li>・その他の範囲は過年度の調査で大きな変化が見られないため、次回はH25以降に必要性を判断して実施</li> </ul>	P9
	試験施工地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施工方法の効果、問題点を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験目的が検証されるまで実施。</li> </ul>	P10
	整備地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備による効果を検証する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備効果及び維持管理効果が検証されるまで実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上池試験掘削地は「整備地」と一体で調査を実施</li> <li>・上池湿地環境創出試験地は、湿地化する可能性が認められないため、当面は調査対象とはせず、試験地の活用方法を検討する。</li> <li>・ハンノキ育成試験地は、検証事項(密度の影響)が残っているため、調査を簡略化して継続</li> </ul>



対象地・対象範囲		凡例
太郎右衛門地区全体		---
整備地	当面の整備対象範囲	斜線
	試験施工地	□
	整備地	○

# 3. 太郎右衛門地区全体の調査計画

【目的】地区全体の自然環境の現況（および変化）の把握

青字はH23からの削減部分  
赤字はH23からの追加部分

- 基礎的な調査
  - ・地下水位調査を継続する。
  - ・旧流路(上池、中池、下池)の水質調査を実施する。
  - ・地区全体の植生調査、動植物の生息・生育調査を実施する。…H24年度は鳥類・昆虫類を実施する。
- テーマ調査
  - ・H24年度に生態系モニタリング専門委員会で検討する。

項目	調査目的	対象	H24実施内容	備考		
基礎的な調査	地下水位	・整備地地盤と地下水位を比較 ・施工による影響を確認	地下水位27地点	・経時的な地下水位（1時間ごとに記録。データ回収・メンテナンス時以外は継続設置）	・H15（3地点）より必要に応じて地点数を追加し継続調査	
	水質	・土地利用の影響を検証	旧流路（上・中・下池）の水質	・年間6回（COD、T-N、T-P、DO、pH等）実施		
	生物	・乾湿などに応じた植生の把握 ・動植物の生息・生育環境としての植生の把握  ・植生に応じた動植物の生息・生育状況の把握 ・希少種・外来種の出現情報（個体数、繁殖・採餌等の情報）の把握（全体の動植物相）	植生	—	—	・植生図はH21が最新であるが、精度が異なるもののH23に河川水辺の国勢調査でも作成されているため、次回はH26の動植物調査の基礎情報とするためH25に実施する。
			植物	—	—	・H20が最新だがH21-23の「当面の整備対象範囲」の広範囲のデータがあり、変動が大きい部分は継続調査を行うため、全体については次回はH26に実施する。
			鳥類	—	・年間2回実施	・前はH20に実施
			両生類・は虫類・ほ乳類	—	—	・H20が最新だが、H24に河川水辺の国勢調査が実施されるため、次回調査の時期はその後検討予定
			昆虫類	—	・年間2回実施	・前はH20に実施
			魚類	—	—	・H23が最新であり、前回H17と比較しても大きな変化はみられないため、次回はH26に実施予定
			底生動物	—	—	・H23が最新であり、前回H17と比較しても大きな変化はみられないため、次回はH26に実施予定
テーマ調査	生物	(H24に生態系モニタリング専門委員会で検討する)				

【目的】地区全体の自然環境の現況  
(および変化)の把握

# 3. 太郎右衛門地区全体の調査計画

## 調査スケジュール

項目		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	備考	
基礎	地下水位													・連続観測	
	水質	●		●		●		●		●		●		・6回調査	
	生物	鳥類			●							●			・6月：繁殖期、1月：越冬期
		昆虫類			●		●								・6月：ミドリシジミ・トンボ類等の出現期、8月：多種の確認適期
テーマ	生物													・内容はH24に委員会で検討	

## 調査範囲

### 地下水位・水質

- 地下水位は過年度と同じ地点で実施する。
- 水質調査は旧流路で実施する。



# 3. 太郎右衛門地区全体の調査計画

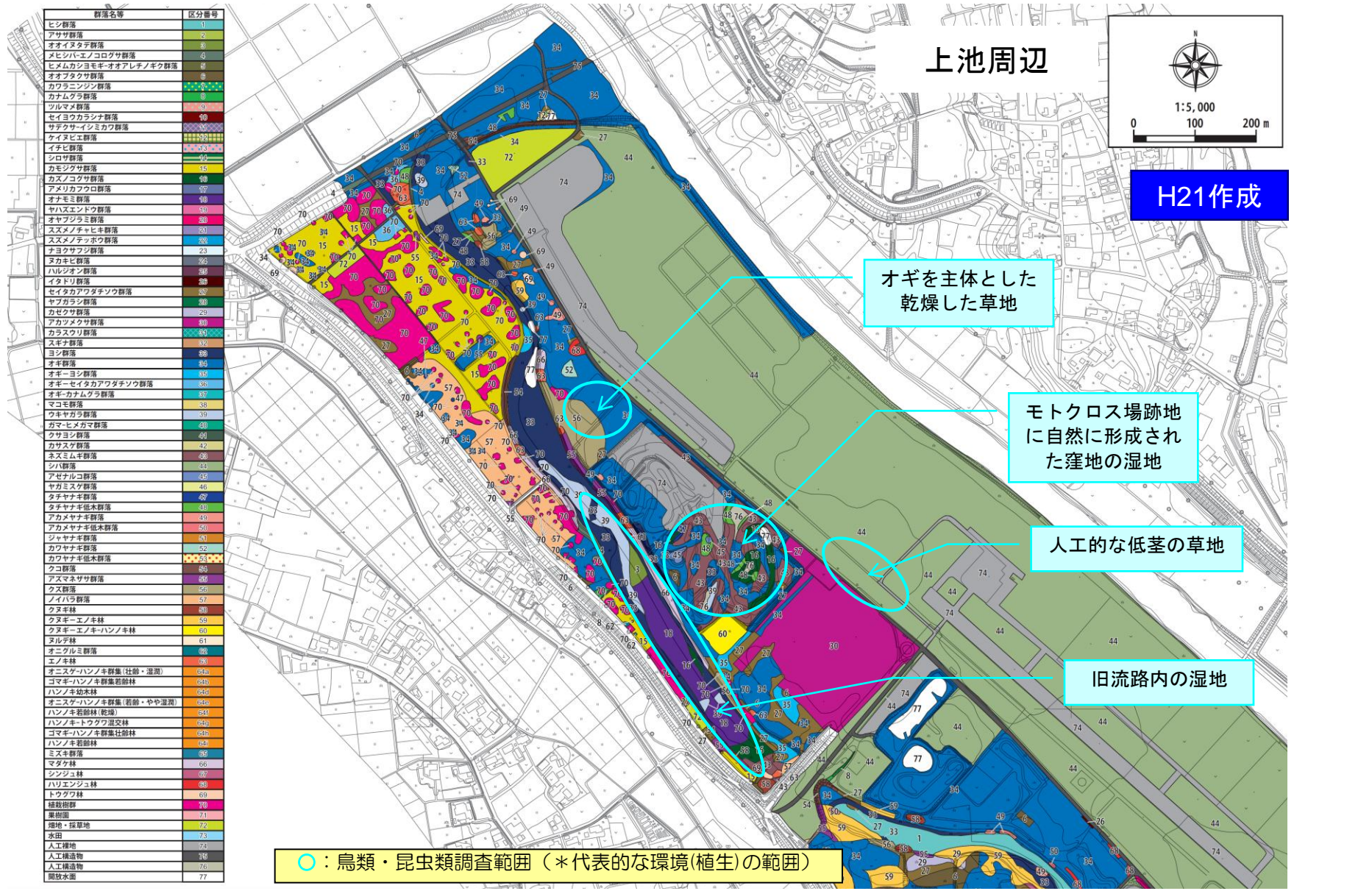
【目的】地区全体の自然環境の現況（および変化）の把握

青字はH23からの削減部分  
赤字はH23からの追加部分

## 調査範囲

## 鳥類・昆虫類

●鳥類・昆虫類調査は、代表的な植生の場所で行う。



群落名等	区分番号
ヒン群落	1
アサギ群落	2
オオイタダ群落	3
メシハエノコログサ群落	4
ヒメムカシヨモギ-オオアレチノギク群落	5
オオアサギ群落	6
カワラニンジン群落	7
カナムグラ群落	8
ウルメ群落	9
セイヨウコナシ群落	10
サチクサイミカワ群落	11
ケイマヒエ群落	12
イチビ群落	13
シロザ群落	14
カモシサ群落	15
カスノコ群落	16
アメリカワロ群落	17
アサモ群落	18
ヤハエドク群落	19
オヤブシ群落	20
スズメノチャヒキ群落	21
スズメノテウ群落	22
オヨクサ群落	23
ヌカキ群落	24
ハルジオン群落	25
イタドリ群落	26
セイタカアワダチソウ群落	27
ヤブガラシ群落	28
カゼクサ群落	29
アカツメクサ群落	30
カラスワリ群落	31
スギナ群落	32
クサ群落	33
オキ-ヨシ群落	34
オギ-セイタカアワダチソウ群落	35
オギ-ナムク群落	36
マコモ群落	37
ウキヤガ群落	38
カマヒメカマ群落	39
クサヨシ群落	40
カササ群落	41
スズムキ群落	42
シバ群落	43
アゼナルコ群落	44
ヤガミスゲ群落	45
タチヤナギ群落	46
タチヤナギ低木群落	47
アケメヤナギ低木群落	48
シャヤナギ群落	49
カワヤナギ群落	50
カワヤナギ低木群落	51
クコ群落	52
アスマネサ群落	53
ウス群落	54
ハイイロ群落	55
クヌギ	56
クヌギ-エノキ	57
クヌギ-エノキ-ハンノキ	58
マルデ林	59
オニグルミ群落	60
エノキ	61
オニグルミ-ハンノキ群落(壮齢・遊動)	62
オニグルミ-ハンノキ群落(若齢)	63
ハンノキ幼木林	64
オニグルミ-ハンノキ群落(若齢・やや遊動)	65
ハンノキ若齢林(乾燥)	66
ハンノキトウワグ遊交林	67
コマギ-ハンノキ群落(若齢)	68
ハンノキ若齢林	69
ヒメヤナギ群落	70
マダラ群落	71
シラカシ群落	72
ハリエンジュ林	73
トウワグ林	74
雑草群落	75
果樹園	76
雑地・採草地	77
水田	78
人工埋地	79
人工構造物	80
人工構造物	81
開放水面	82

○：鳥類・昆虫類調査範囲（＊代表的な環境(植生)の範囲）

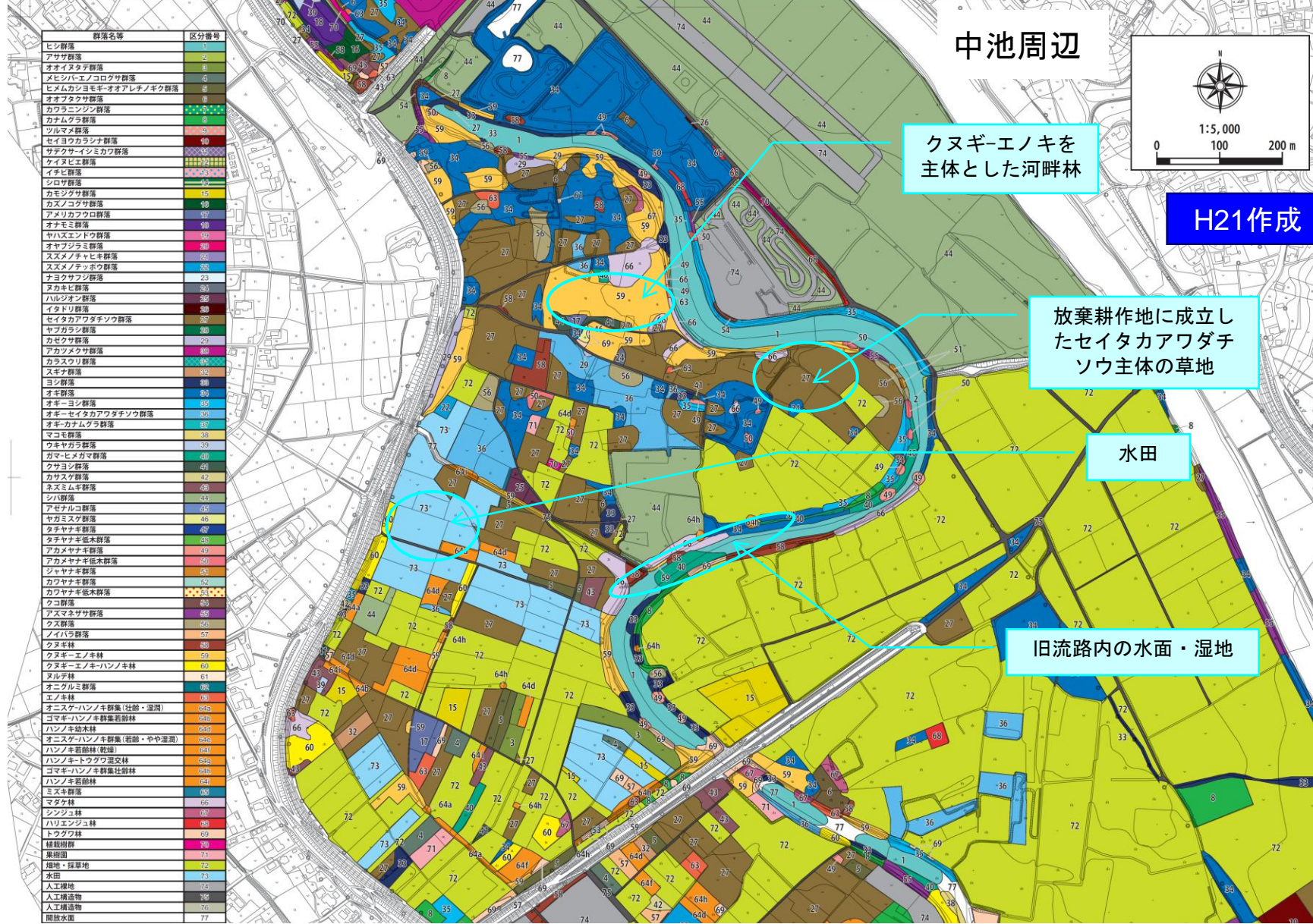
# 3. 太郎右衛門地区全体の調査計画

【目的】地区全体の自然環境の現況（および変化）の把握

青字はH23からの削減部分  
赤字はH23からの追加部分

## 調査範囲

○：鳥類・昆虫類調査範囲（\*代表的な環境(植生)の範囲）



群落名等	区分番号
ヒシ群落	1
アサ群落	2
オオイタテ群落	3
メシハエノコクサ群落	4
ヒメムカシヨモギ-オオアレチノギク群落	5
オオボタ群落	6
カラムシ群落	7
カラムシ群落	8
ツルマメ群落	9
セイヨウカラシナ群落	10
サテウサイシミカワ群落	11
ケイタヒエ群落	12
イチヒ群落	13
フクロ群落	14
カキコ群落	15
カスノコサ群落	16
アメリカワウロ群落	17
オナモミ群落	18
ヤハスエンドウ群落	19
オヤブシ群落	20
スズメノヤビキ群落	21
スズメノヤビキ群落	22
ナヨクサ群落	23
マカヒ群落	24
ハルシオン群落	25
イタドリ群落	26
セイトカアワダチソウ群落	27
ヤブガラシ群落	28
カワウソ群落	29
アカメヤサ群落	30
カラスリ群落	31
スキナ群落	32
ヨシ群落	33
オキ群落	34
オキ-ヨシ群落	35
オキ-セイトカアワダチソウ群落	36
オキ-カラムシ群落	37
マコモ群落	38
ウキヤカラ群落	39
ガマ-ヒメガマ群落	40
ウサヨシ群落	41
カサケ群落	42
ネスミムキ群落	43
シハ群落	44
アセリコ群落	45
ヤガミサ群落	46
タチヤナキ群落	47
タチヤナキ低木群落	48
アカメヤナキ群落	49
アカメヤナキ低木群落	50
シヤヤナキ群落	51
カワナキ群落	52
カワナキ低木群落	53
クコ群落	54
アスマネサ群落	55
ウス群落	56
ノイハラ群落	57
クヌギ群落	58
クヌギ-エノキ群落	59
クヌギ-エノキ-ハンノキ群落	60
エノキ群落	61
オニダルミ群落	62
エノキ群落	63
オニスケ-ハンノキ群集(社跡・遊園)	64a
コマギ-ハンノキ群集若齢林	64b
ハンノキ若齢林	64c
オニスケ-ハンノキ群集(若齢・中や遊園)	64d
ハンノキ若齢林(乾燥)	64e
ハンノキ-トクワ混交林	64f
コマギ-ハンノキ群集社跡林	64g
ハンノキ若齢林	64h
ミスキ群落	65
マタタ群落	66
ツツミ群落	67
ハリエンジュ群落	68
トクワ群落	69
緑樹樹群	70
栗樹園	71
裸地・採草地	72
水田	73
人工裸地	74
人工建造物	75
人工構造物	76
開放水面	77

中池周辺

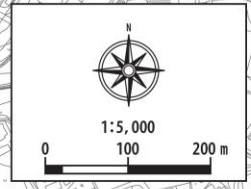
クヌギ-エノキを主体とした河畔林

放棄耕作地に成立したセイトカアワダチソウ主体の草地

水田

旧流路内の水面・湿地

H21作成



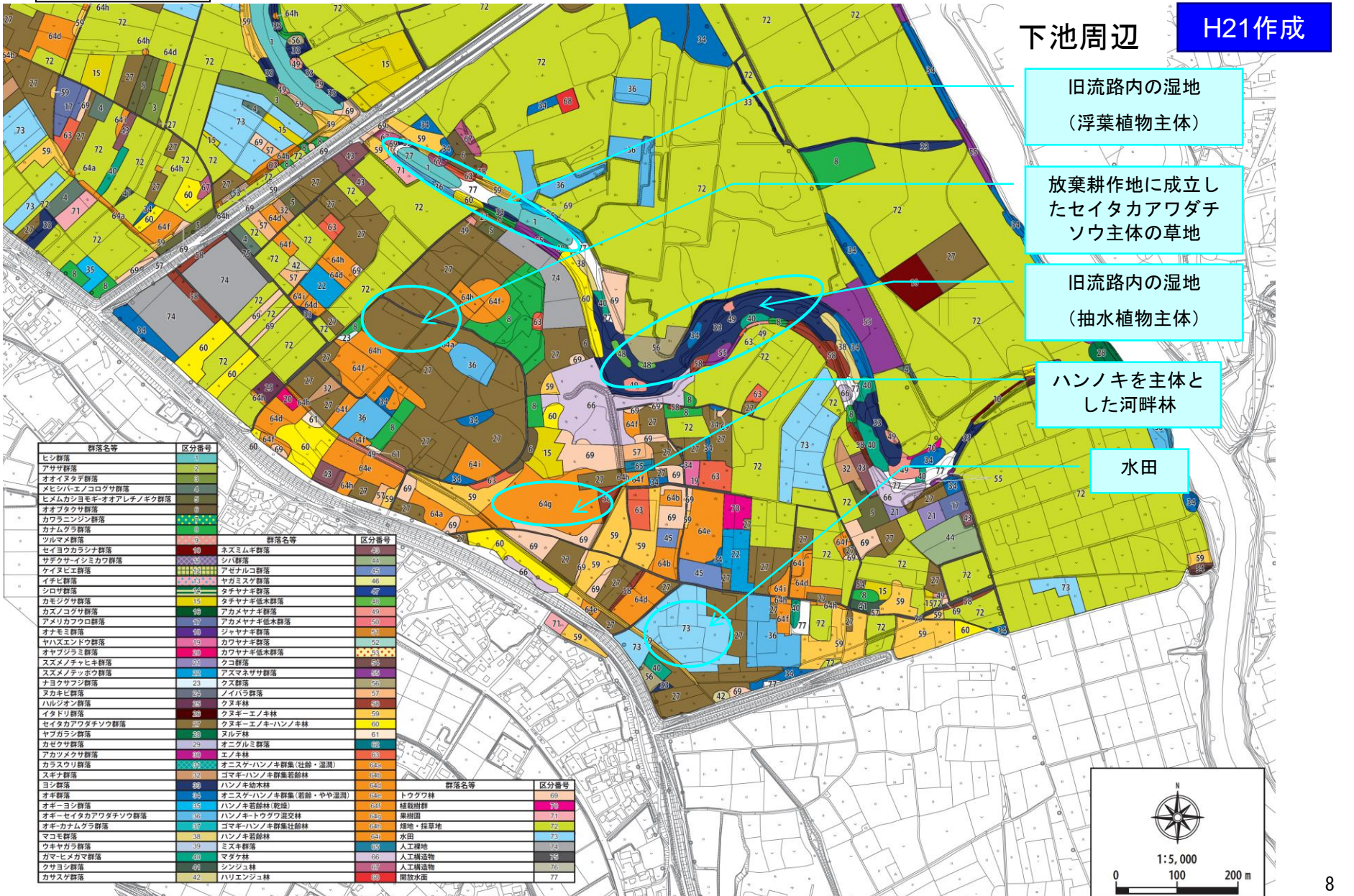
# 3. 太郎右衛門地区全体の調査計画

【目的】地区全体の自然環境の現況（および変化）の把握

青字はH23からの削減部分  
赤字はH23からの追加部分

## 調査範囲

○：鳥類・昆虫類調査範囲（\*代表的な環境(植生)の範囲）



群落名等	区分番号	群落名等	区分番号
ヒシ群落	1	ネスミキ群落	48
アサザ群落	2	シハ群落	49
オオイタダ群落	3	アゼナルコ群落	44
アズシハエゴロガサ群落	4	ヤカミヌガ群落	45
セムムシオオアレチノギク群落	5	タチバナ群落	46
オオアツク群落	6	タチバナ低木群落	47
カワランシジミ群落	7	アカメヤナギ群落	48
カナムグラ群落	8	アカメヤナギ低木群落	49
ツルマメ群落	9	ジャヤナギ群落	50
セイヨウカラシナ群落	10	カワヤナギ群落	51
サデクサイシミカワ群落	11	カワヤナギ低木群落	52
ケイヌヒエ群落	12	クコ群落	53
イチヒ群落	13	アズメナギ群落	54
ウツギ群落	14	クヌギ群落	55
カモツクサ群落	15	ノイバラ群落	56
カスノコグサ群落	16	クヌギ林	57
アメリカワロ群落	17	クヌギ・エノキ林	58
オナモミ群落	18	クヌギ・エノキ・ハシノキ林	59
ヤハスエンドウ群落	19	クヌギ・エノキ・ハシノキ林	60
オヤシラミ群落	20	ヌルデ林	61
スズメノチャヒキ群落	21	クコ群落	62
スズメノチャヒキ群落	22	アズメナギ群落	63
ヨコクサ群落	23	クヌギ群落	64
ヌカキヒ群落	24	ノイバラ群落	65
ハルシオン群落	25	クヌギ林	66
イタドリ群落	26	クヌギ・エノキ林	67
セイタカアワダチソウ群落	27	クヌギ・エノキ・ハシノキ林	68
ヤブガラシ群落	28	ヌルデ林	69
カケサ群落	29	オニグルミ群落	70
アカツメクサ群落	30	エノキ林	71
カラスワリ群落	31	オニグルミ・ハシノキ群落(社樹・湿潤)	72
アサギ群落	32	コマヤシノキ群落(社樹)	73
ヨシ群落	33	ハンノキ幼木林	74
オギ群落	34	オニグルミ・ハシノキ群落(社樹・やや湿潤)	75
オギ・ヨシ群落	35	ハンノキ若齢林(乾燥)	76
オギ・セイタカアワダチソウ群落	36	ハンノキトウワウ混交林	77
オギ・カナムグラ群落	37	コマヤシノキ群落(社樹)	78
マコモ群落	38	ハンノキ若齢林	79
ウキヤガラ群落	39	ミズキ群落	80
カマシメカタマ群落	40	マダタ群落	81
ウツギ群落	41	シシトフ群落	82
カササキ群落	42	ハリエンジュ林	83
		トウワウ林	84
		雑草群落	85
		果樹園	86
		畑地・雑草地	87
		水田	88
		人工雑草地	89
		人工雑草地	90
		開墾水面	91



【目的】整備にあたっての留意点の確認  
(配慮すべき重要種の存在など)

# 4. 当面の整備対象範囲の調査計画

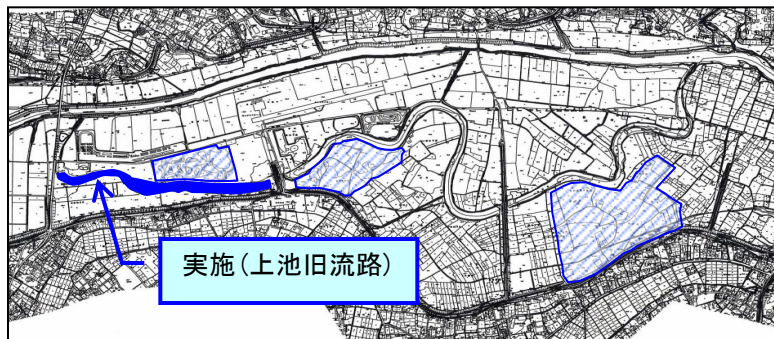
- 上池の旧流路は年により出現の変動が大きいエキサイゼリ・オナモミが生育するため、調査を継続する。
- その他の範囲は過年度の調査で大きな変化が見られないため、次回はH25以降に必要性を判断して実施する。

項目	調査目的	対象	H24実施内容	備考
上池 旧流路	・希少種・外来種の出現情報（個体数、繁殖・採餌等の情報）の把握（全体の植物相）	植物相	・ 年間2回実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年により出現の変動が大きいエキサイゼリ・オナモミが生育しているため、H24も実施する。（H23はエキサイゼリの確認に適する春季のみ実施していたが、H24はオナモミの確認に適する夏季を追加する）</li> <li>・ H21-H23にかけて大きな変化は見られないため、次回はH25以降に必要性を判断して実施する。</li> </ul>
上池 モトクロス場跡地			—	
中池 河畔林			—	
下池 河畔林			—	

## 調査スケジュール

項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	備考
上池旧流路 植物相	●				●								・エキサイゼリ(春季)、オナモミ(夏季)の確認が可能な春季・夏季に実施する。

## 調査範囲



H14-20年度の調査では「当面の整備対象範囲」で動物の重要種は確認されていないため、H24も調査対象として挙げていません。しかし、「太郎右衛門地区全体」の調査において「当面の整備対象範囲」も含めて実施します。

# 5. 試験施工地の調査計画

【目的】施工方法の効果、問題点の確認

青字はH23からの削減部分  
赤字はH23からの追加部分

- ハンノキ育成試験地は、検証事項(密度の影響)が残っているため、調査を簡略化して継続する。
- 上池試験掘削地は「整備地」と一体で調査する。
- 湿地環境創出試験地は湿地化する可能性が認められないため、当面は調査対象とせず、試験地の活用方法を検討する。

項目	調査目的	対象	H24実施内容	備考
上池試験掘削地 (上池旧流路)	・開放水面の形成による水生生物の出現確認	—	—	・「整備地(上池旧流路掘削地)」と一体化したため、調査は一括して実施する。
湿地環境創出試験地 (上池モトクロス場跡地)	・埋土種子からの出現種の確認 ・湿地の形成による湿生生物の出現確認	—	—	・湿地化せずに高茎草本が優占する状態となったため、当面は調査対象とせず、試験地の活用方法を検討する。
ハンノキ育成試験地 (下池河畔林)	・立地・地盤条件・移植方法に応じたハンノキの生育状況	ハンノキ每木	・年間2回実施	・生育傾向は確認されたため、高さは毎木ではなく群落単位で概略を計測する。 ・密度効果による影響が出つつあるため、生育状態は毎木ごとに確認する。(密度の異なるグループごとで評価する) ・移植を行わずに種子の落下と実生からの成長を期待した試験地①は効果が見られないため、状況観察のみ行う。
	・ハンノキ依存昆虫の出現確認	ミドリシジミ	・年間1回実施	・昆虫類は、目標であるミドリシジミとオナガミズアオのうち、日中に観察可能なミドリシジミの調査を継続する。

## 調査スケジュール

項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	備考
ハンノキ育成試験地	高さ生育状態		●				●						・5月：生育初期 ・10月：生育末期
	ミドリシジミ			●									・ミドリシジミの確認適期

## 調査範囲

上池試験掘削地  
(上池旧流路掘削地と一体で実施)



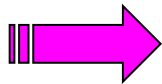
ハンノキ育成試験地  
②③を実施  
①は状況観察

ハンノキ育成試験地の調査は専門的な内容ではないため、協議会委員による調査の実施が可能です。

# 6. 整備地の調査計画

- 上池旧流路掘削地は、試験施工地と一体で「植物」「魚類」「鳥類」を実施する。
- 上池モトクロス場跡地掘削地は、「植物」「鳥類」を実施する。
- 下池ハンノキ移植地は、移植ハンノキの「毎木調査」を実施する。

項目	調査目的	対象	H24実施内容	備考
上池旧流路掘削地	・開放水面の形成による水生生物・水域利用生物の出現確認	植物相	・年間2回実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備の直接的な効果の確認が期待できる植物・魚類を対象とする。</li> <li>・目標種に含まれ、広域ネットワーク化の効果の指標ともなる「鳥類」を新たに実施し、繁殖・採餌などの行動に着目する。</li> <li>・試験施工地（上池試験掘削地）が一体化したため、調査は一括して実施する。</li> </ul>
		鳥類相	・年間1回実施	
		魚類相	・年間1回実施	
上池モトクロス場跡地掘削地 (上流側A地区) (下流側D地区)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埋土種子からの出現種の確認</li> <li>・湿地の形成による湿生生物・水域利用生物の出現確認</li> </ul>	植物相	・年間2回実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備の直接的な効果の確認が期待できる植物を対象とする。</li> <li>・目標種に含まれ、広域ネットワーク化の効果の指標ともなる「鳥類」を新たに実施し、繁殖・採餌などの行動に着目する。</li> </ul>
		鳥類相	・年間1回実施	
下池ハンノキ移植地 (元シンジュ繁茂地)	・ハンノキの生育状況の確認	ハンノキ 毎木	・年間2回実施	・移植した毎木について、高さ・幹径・生育状態を記録する。



## ●将来的な調査について

- ・試験施工地で実施していた植物の「群落組成調査」は、目標種の群落が形成され始めた時点で実施を検討する。
- ・試験施工地で実施していた「昆虫類」の調査は、生息環境となる植物の群落が形成され始めた時点で実施を検討する。
- ・整備効果の指標となりうる「両生類」、「底生動物」については、他の調査時に確認され始めた時点で実施を検討する。

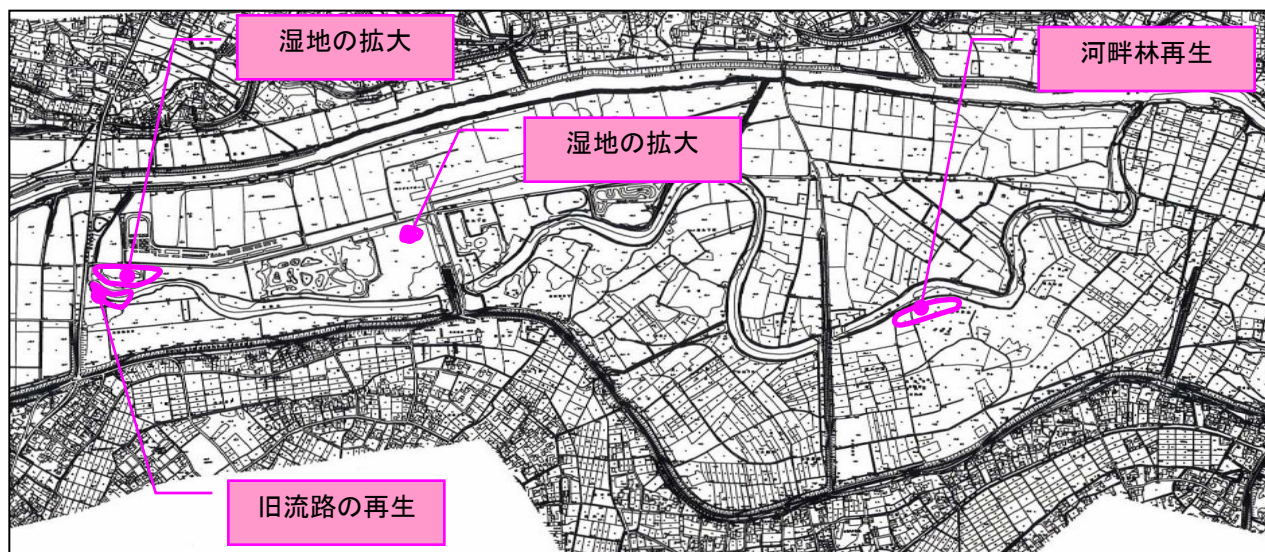
ハンノキ育成試験地の調査は専門的な内容ではないため、協議会委員による調査の実施が可能です。

## 6. 整備地の調査計画

## 調査スケジュール

項目		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	備考
上池 旧流路掘削地	植物相		●			●								・5月：エキサイゼリの確認適期 ・8月：一般的な水生・湿生植物の確認適期
	鳥類相			●										・繁殖期
	魚類相		●											・多くのコイ科魚類の産卵期・稚仔魚期
上池モトクロス 場跡地掘削地	植物相		●			●								・5月：エキサイゼリの確認適期 ・8月：一般的な水生・湿生植物の確認適期
	鳥類相			●										・繁殖期
下池 ハンノキ移植地	ハンノキ 每木		●					●						・5月：生育初期 ・10月：生育末期

## 調査範囲



# 参考 第19回生態系モニタリング委員会の主な意見

- 「モニタリング調査の実施者」については研究者の参画を求めていくことをしたい。
  - ⇒ 浅羽では植物の専門家が3回/週くらいの頻度で見てくれたため、パイオニア植物の初期の進入傾向が細かくわかった。遷移の初期のストーリーを明らかにするには、5月の1回だけでは不足ではないか。
  - ⇒ 場所を提供し、データをもらうという前提で参画を呼びかける形になるのではないか。
  - ⇒ 参画を呼びかけるには研究費も必要なのではないか。
  - ⇒ 浅羽では学生の研究に利用してもらったので、送迎などの協力はしたが研究費の提供は必要なかった。少ない投資で大きな成果が得られた例である。
  - ⇒ ミツ又では学生が研究に利用しているようだが、交流・情報は無い。
  - ⇒ 協議会の監督のもとで信頼できる人に実施してもらうことが必要であるため、浅枝会長に相談することとする。
  - ⇒ 研究に利用してもらう時には、自然再生事業で何をやっていて何をを目指しているのかは説明しておくべきである。
- 太郎右衛門地区全体の調査については、H24について「実施しない」とするだけでなく、今後の長期的な実施予定を設定・提示する必要がある。
  - ⇒ 河川水辺の国勢調査は太郎右衛門地区で必要な調査とは目的が異なるため参考程度とし、太郎右衛門地区で必要なことを設定しておく必要がある。
  - ⇒ 代表的なところだけでも毎年見ていった方が良い。そういう部分で外部の人に参画してもらうのも良い。例えば、下池の樹林地でハンノキ主体の場所とヤマザクラが混じりつつある場所、セイタカアワダチソウが樹林地に遷移しつつある場所などについて、群落の構成や構造がどのように変わっていくか見ておくことなどは重要である。
  - ⇒ 外来種や移入種についてみていくことも必要がある。
  - ⇒ 畜産廃棄物の問題についても、具体的に影響が指摘できるように植生や水質への影響を把握する必要がある。
  - ⇒ ミツ又では水生植物がヒシも含めてすべて消失した。水質の影響があると考えられるが原因は特定できていない。
  - ⇒ 出水により掘削地に水が流入した場合は、成果が見えるように、水位や魚などの生物について、その後の変遷を継続的に見ていくことが望ましい。
  - ⇒ テーマによって必要な頻度は異なるが、植物については1回/3年くらいの頻度で必要であり、1回/5年では足りない。動物は出現した時に行く。
  - ⇒ 湿地～乾燥地で変化している場所、外来種～在来種で変化している場所、放棄水田の様相の異なるいくつかの場所などについて、着目して変遷を見ておく。
  - ⇒ 水質は毎年見ておく必要がある。年1回では現象が押さえられないので、方法は検討する。

## 参考 第19回生態系モニタリング委員会の主な意見

- モニタリングの全般における今後のあるべき調査については、浅枝会長・三島委員長から提言をして欲しい。
- 今後の調査や管理を考えれば、研究活動センターのような施設があると良い。
  - ⇒ 管理作業をするには用具置き場が必要であり、そのような拠点が欲しい。
  - ⇒ 借りた場所での活動は落ち着かないので、拠点は欲しい。
  - ⇒ 全国的にもそのような拠点を持っている場所では活動が維持されている。
  - ⇒ 当面、河川事務所内でデータ管理だけでも出来るスペースがあると良い。データベースも、誰が管理するかはともかく、集約できるフォーマットを先に用意しておくが良い。
  - ⇒ 工事が進捗しつつあるが、ソフト面もあわせて進めていく。
- 整備地の立ち入り制限を目的とした管理について、木柵を作るなら周辺にノイバラを植えると効果的である。
  - ⇒ 将来的には全域を鳥獣保護区に指定できると良い。

# 平成24年度のモニタリング調査計画 《資料編》

# 過年度の調査実施状況とH24の計画案

## 1. 太郎右衛門地区全体

### 1) 地下水位調査

項目	内容	H20	H21	H22	H23	H24	備考
地下水位	経時的な地下水位	●	●	●	●	●	毎年継続

### 2) 水質調査

項目	内容	H20	H21	H22	H23	H24	備考
水質	旧流路の水質	—	—	—	—	●	毎年継続

### 3) 生物調査: 基礎的な調査

項目	内容	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	備考
植生	群落の面的分布	●	—	—	●	—	—	● (2カ年度で実施)	—	—	—	—	次回H25
植物	生育種のリスト (貴重種は位置情報)	●	●	●	●	●	●	●	—	—	夏・秋 (水域のみ)	—	次回H26
鳥類	生息種のリスト (貴重種は位置情報)	●	●	●	●	●	●	●	—	—	—	●	次回H27
両生類・爬虫類・ほ乳類	生息種のリスト (貴重種は位置情報)	●	●	●	●	●	●	●	—	—	—	— (水国)	次回、水国の結果をもとに検討
昆虫類	生息種のリスト (貴重種は位置情報)	●	●	●	●	●	●	●	—	—	—	●	次回H27
魚類	生息種のリスト (貴重種は位置情報)	—	—	●	●	—	—	—	—	—	夏	—	次回H26
底生動物	生息種のリスト (貴重種は位置情報)	—	—	●	●	—	—	—	—	—	夏	—	次回H26
備考	—					中池・下池のみ		植物以外は 中池・下池のみ			水域の植物・魚類・底生動物は最新情報取得のため実施		原則として 3年に1回実施

\* : 調査範囲は、同じ「上池」「中池」「下池」であっても年度によりやや異なる

\* : これら以外に河川水辺の国勢調査(植物関係および陸上の動物)、オオタカ調査、「川島都市林(仮称)自然環境調査(平成9年3月)」がある



## 2. 当面の整備対象範囲

項目	内容	目的	H21	H22	H23	H24
植物	植物相	生育種のリスト (貴重種は位置情報) ●整備にあたって留意すべき種が生育しないかどうかを確認する。 ●試験施工地の出現種と比較し、その効果を検証する。	● 春・夏・秋	● 春・夏・秋	● 春	● 春・夏
備考	—	—			全体傾向に変化が無いため、春季にエキサイゼリの確認を終え、夏季以降は中止した。	オナモミの確認に適する夏季を追加する。

\* : 動物については、過年度の「太郎右衛門地区全体」の結果を参考としている。

## 3. 試験施工地

### ①上池試験掘削地

項目	内容	目的	H21	H22	H23	H24
植物	植生	群落の面的分布	●	●	●	—
	群落組成	群落の構成種と分布の特徴	●	●	● 春	—
	植物相	生育種のリスト (貴重種は位置情報)	●	●	●	—
昆虫類	生息種のリスト (貴重種は位置情報)	目標種の出現状況を確認する。	●	●	●	—
魚類	生息種のリスト (貴重種は位置情報)	目標種の出現状況を確認する。	—	●	●	—
底生動物	生息種のリスト (貴重種は位置情報)	目標種の出現状況を確認する。	—	—	●	—
備考	—	—		出水時に本川からの水が流入したため、魚類調査を追加した。	施工後3年目においても目標主の「群落」は形成されなかったため、夏季以降の「群落組成調査」は中止した。	整備地と一体で実施する。

## ②湿地環境創出試験地

項目	内容	目的	H21	H22	H23	H24
植物	植生	群落の面的分布	●	●	● 春	—
	群落組成	群落の構成種と分布の特徴	●	●	● 春	—
	植物相	生育種のリスト (貴重種は位置情報)	●	●	● 春	—
昆虫類	生息種のリスト (貴重種は位置情報)	目標種の出現状況を確認する。	●	●	● 春	—
備考	—	—			施工後3年目においても湿地環境は形成されなかったため、夏季以降の調査は中止した。	湿地化が見られないため中止する。

## ③ハンノキ育成試験地

項目	内容	目的	H21	H22	H23	H24
植物	植生	群落の面的分布	●	●	● 春・秋	—
	群落組成	群落の構成種と分布の特徴	●	●	● 春	—
	植物相	生育種のリスト	●	●	● 春	—
	ハンノキ	毎木の高さ・径	●	●	● 春・秋	● 春・秋
昆虫類	生息種のリスト (貴重種は位置情報)	目標種の出現状況を確認する。	●	●	● 春・夏	● 初夏
備考	—	—			移植したハンノキは順調に生育していることから、頻度は落とす。	ハンノキの密度効果を継続して検証する。 ミドリシジミの飛来については継続して検証する。

## 4. 整備地

### ①上池旧流路掘削地

項目	内容	目的	H24
植物	全体のリスト 稀少種・外来種の出現情報 繁殖に関する情報	目標種の出現状況を確認する。	● 春・夏
鳥類			● 初夏
魚類			● 春
備考	—	—	試験掘削地と一体で実施する。

### ②上池モトクロス場跡地掘削地

項目	内容	目的	H24
植物	全体のリスト 稀少種・外来種の出現情報 繁殖に関する情報	目標種の出現状況を確認する。	● 春・夏
鳥類			● 初夏
備考	—	—	

### ③ハンノキ移植地

項目	内容	目的	H24
ハンノキ每木	毎木の高さ・幹径、生育状態)	ハンノキの生育状況を確認する。	● 春・秋
備考	—	—	